

越後駒ヶ岳山行記録



山頂と中ノ岳

山頂から見下ろす

山頂が輝く

目的地	越後駒ヶ岳	期 日	平成22年5月3日(月・祝)・終日快晴
山人	笠原正雄単独	特 記	帰りにストック一本を忘れてしまった。

地点名	時刻	記 事
自宅	午前5:15発	下道を軽自動車で行く。
駒ノ湯駐車地点	6:25~7:10	10台程あり、路側に乗り上げてとめる。弁当朝食、準備。
歩き出し	7:10	ダブルストックの片方の具合が悪い。諦めてそれを車の下に隠し置いて1本ストックで歩き出す。吊り橋の板は1枚のみ。少し雪を踏んで夏道となる。
小倉尾根取り付き	7:45	取り付きに雪がついている。5分で尾根夏道に上がる。
下山者とスライド	8:25	大きなザックを担いだ男2人隊とスライド。
毛綱山を眺める	8:35	また男2人とスライド。振り返って一昨日登った毛猛山を眺める。
雪歩きと交互に	9:00	夫婦とスライド。夏道の脇に雪がついている。夏道と交互に進む。
ニセ小倉鎖場手前	9:12	吹く風が少しヒンヤリして来た。夏道の右手沢側にしっかり雪が着いている。そこを男3人が降りてきた。ピッケルに持ち替えてそのトレースを貰い急登する。
ニセ小倉	9:25	登りきる。この登りで夫婦プラス男の3人隊を追い越す。
小倉山	9:45	手前で男女4人隊とスライド。道行山方向を見るが、人影はない。この先の鞍部にテント1張がある。1本ストックに持ち替える。
百草池	10:30~10:40	手前で前行幕営の男女5人隊が下山して来た。少し食べる。周囲が良く見えていて、中ノ岳のピークが光っている。前駒の登りに2人、下りに1人が見える。
前駒に上る	11:10	白いヘリが小屋と山頂上空を旋回して東に飛んで行った。2人がここにスキー置いて小屋を目指している。燧・至仏が見えて来た。丹後に至る山々が輝いている。
駒の小屋	11:30	直前で先行の2人を追い越す。静かだ。1人が山頂へ向かっている。ザックを置いて山頂へ向かう。先行者が雪の上を直線的に下りてきた。それに倣って登る。
駒ヶ岳山頂	11:45~11:50	誰もいない。神像周囲だけ雪が剥けている。巻機山、オカメノゾキ。平野もはっきり見える。浦佐と五日町スキー場、須原スキー場も見えている。毛猛山、浅草岳の奥は飯豊だろうか。夏道T字分岐まで進み中ノ岳方向を眺めてから下る。
駒の小屋へ戻る	12:00~1:00	外で男2人が食事準備中、山スキーで銀山平から昨日入山し、小屋泊。ここから基点に何度も山頂から滑り降りたと言う。日差しが強く紫外線が怖くて小屋の中に入り、独り占めでゆっくりランチ。ピッケルで下山へ。
百草池	1:25	前駒に降るとニセ小倉で追い越した夫婦プラス男3人隊が休んでいた。奥さんはかなりお疲れの様子だった。埼玉からで今夜は小屋泊だ。この時期、何度か来ているようで、谷川岳は混んでいる、ここは静かで好きだと言っていた。ここへの下りはシリセードに格好な場所なのだが、雪が腐って来て滑らない。
百草池の下の台地	1:30	暑くなりカッターシャツを脱ぐ。もう一度日焼け防止クリームを塗る。
小倉山	1:55	山は静かだ。見廻すが誰の姿も見えない。
ニセ小倉	2:05	途中夏道が出ている所もあるが、ここで雪尾根を右折して下る。
栗ノ木ノ頭	2:30	夏道を下る。倒れた標柱の文字が殆ど読めない。上山時には脇についている雪の上を歩いたのだろうか、気付かなかった。
立ち休み	2:50~2:55	道行沢対岸の緩やかに登っている明神尾根を眺めながら笹ダンゴを食べる。ブナ林の緑はまだ浅い。タムシバ、イワウチワ、カタクリ。
駒ノ湯駐車地点	3:20	栗ノ木ノ頭過ぎから急に気温が上がり暑くなる。車は5台残り。ユビオで入浴。
ストック忘れ	7時過ぎ帰宅	小千谷迄来て、車の下に置いていた片方のストックを乗せ忘れたことに気付く。Uターンして取り戻しに行ったが、誰か持って行ったらしく無くなっていた。

ここ数年、春山に銀山平からと交互にこの山に出掛けている。今年は銀山平から年なのだが、柳沢までの林道歩きが退屈なことと、ガソリン高騰の折、駒ノ湯からの入山とした。全体の時間はむしろこちらの方が短いかも知れない。もう少し人が入っていると思ったが、案外少なく、静かな山旅だった。あ〜あ!、ストック忘れは勿体無かった。